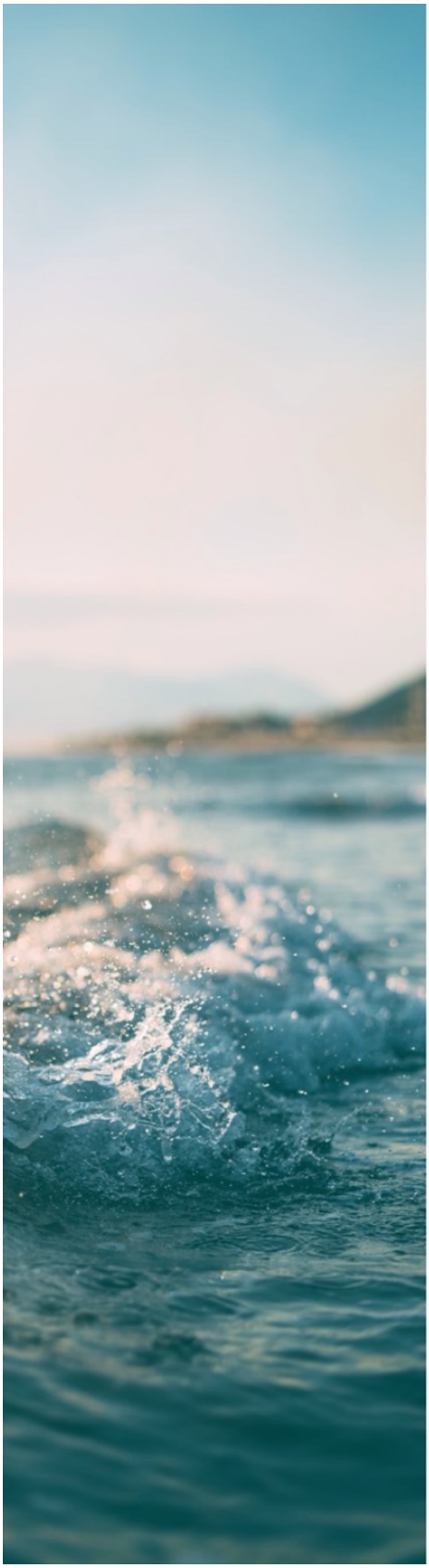


2022 SUSAP
マルタ・フィリピン
ClassLive Program

事前研修 6/27～8/10

オンライン研修 8/23～9/16

事後研修 9/20

目次

1. プログラム概要 ・・・・・・・・・3

2. フィリピンについて ・・・・・・・・・4

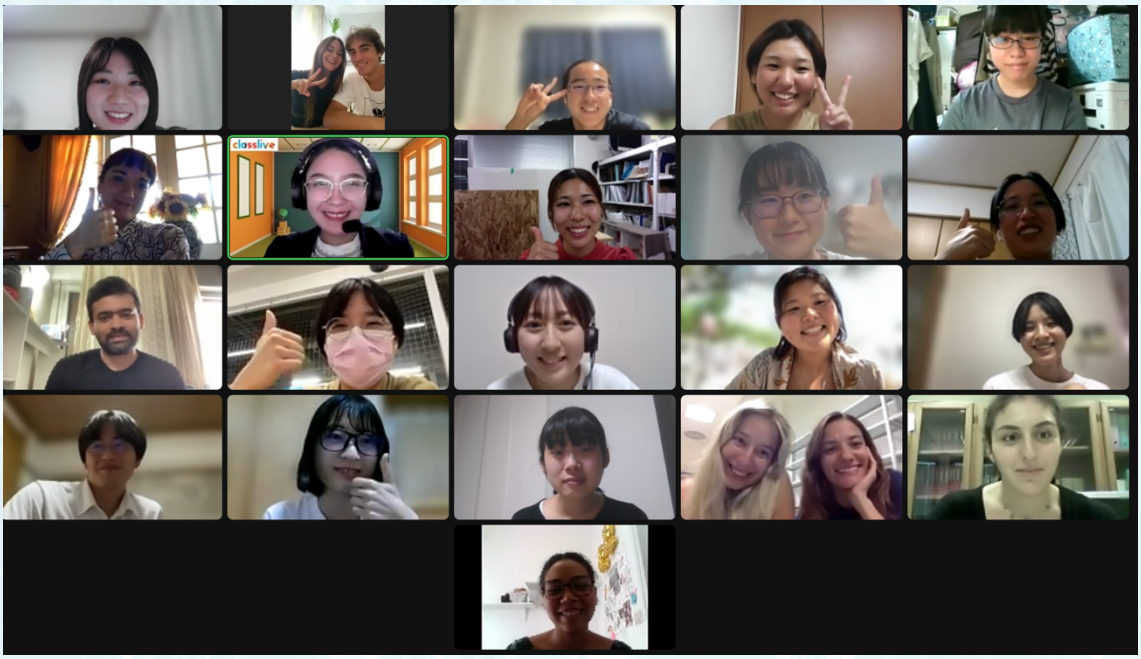
3. マルタについて ・・・・・・・・・5

4. PBL（課題解決型研修)のスケジュール ・・・・・・・・・6

5. 参加メンバー紹介 ・・・・・・・・・7

6. 参加者による報告書 ・・・・・・・・・8～３０

プログラム概要



1. 研修期間

事前研修 6 月 27 日～8 月 10 日、本研修 8 月 23 日～9 月 16 日、事後研修 9 月 20 日

2. 事前研修について

事前研修では日本史や異文化コミュニケーションについての講義を受講した。また、参加者は 4 グループに分かれて、それぞれマルタ・フィリピンの社会と文化について発表、意見交換を行なった。

3. 本研修について

本研修では GG 社と JTB 社が共同で提供しているクラスライブプログラムを用いて、オンライン上で留学体験を行った。プログラム内では、英会話レッスンと並行して課題解決型研修(PBL)に参加し、マルタ・フィリピンの学生と共に水資源についてディスカッションを行う他、バーチャルツアーなどを通して異文化交流を体験した。英会話レッスンでは 25 分のマンツーマンレッスンと 50 分のグループレッスンをそれぞれ 34 コマずつ期間内に受講する。グループレッスンは最大 6 人までの少人数制の授業で、タイなど日本以外の学生とも同じレッスンを受けることができ、英語を使うことを意識した学習が行われる。

4. 事後研修について

事後研修ではそれぞれ 4 グループが本研修内で行った水問題に対する最終発表を日本語で発表し、また研修について振り返り意見交換を行った。







フィリピンについて



人口：1 億 903 万 5,343 人（2020 年フィリピン国勢調査）

国土：日本の約 8 割（298,170km^2）、7107 の島から成る世界第 2 位の群島国家

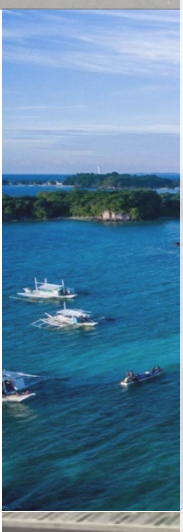
首都：マニラ

言語：公用語としてフィリピノ語と英語が使用されている

宗教：ASEAN 唯一のキリスト教国で、ほとんどがキリスト教カトリック。
　　ミンダナオ島では人口の 2 割以上がイスラム教

政治：共和制、資本主義的

日本との関係性：活発な貿易、投資、経済協力関係があり、中でもフィリピンにとって日本は最大の輸出国で、現在は非常に良好な関係性を持ち、随一の親日国と言われる。





フィリピンの経済

BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)産業を含むサービス業が最も主流(GDP 内約 6 割)で、鉱工業(約 3 割)、農林水産業(約 1 割)と続く。BPO 産業では、多数の外国企業がコールセンターなどをフィリピンに外注している。近年では若者の多さや英会話者の数などの強みから、めざましい経済成長を遂げている。一方で急激な人口増加や都市化と同時に、インフラの整備などが不十分な部分や、所得格差などの問題が表面化している。





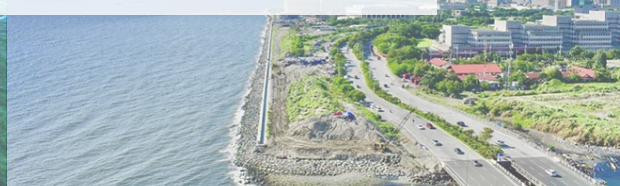
水について

水道水は直接飲むことができないため、ミネラルウォーターを購入し飲料用としている。そのため飲料水取扱事業が多数存在する。また、マニラなど上下水道サービスが一部民営化されている場所もある。しかし、フィリピンは頻発する洪水や海洋汚染、干ばつなど水に関して非常に厳しい状況にもあり、実際にマニラ東部では 2019 年に大規模な断水が発生し、1 日あたり約 1 億 4000 万 L が不足していたと言われている。

その他：セブ島などの美しい観光地を有し、国民性として非常に陽気で明るい人々が多い。











マルタについて

人口：約 52 万人（2021 年時点）

国土：316 km² （=淡路島の半分ほど）、マルタ島・ゴゾ島・コミノ島から成る。

首都：バレッタ

言語：マルタ語及び英語が公用語

宗教：ほとんどがキリスト教カトリック

政治：共和制(一院制)、1974 年に君主制(イギリスの影響)から共和制に移行

日本との関係性：第一次世界大戦中に地中海方面に派遣された日本海軍の艦隊は「地中海の守り神」と呼ばれ、駆逐艦が攻撃により大破された際に亡くなった人々をまつる慰霊碑がマルタの英軍基地内に建てられ、維持・管理されている。また、2020 年には東京都にマルタ大使館が設置され、友好関係は今日も続いている。

マルタの経済

主要産業は製造業(主に半導体・繊維・造船・船舶修理)と観光であり、全体的な経済成長率は高い。天然資源が乏しいため主要な物資を輸入に依存しているため、貿易収支の赤字を観光業からの収入で補填している。マルタは年間 250 万人以上の観光客が訪れる観光立国であり、特に 6 月から 10 月は観光業のハイシーズンのため経済的に重要な期間となる。

水について

マルタは海に囲まれた島国であるが、山・川・湖を持たないため、雨水・地下水もしくは海水が主な水の供給源となっている。しかし地中海性気候によって年間の降水量は少なく、海水を濾過する装置を導入するなどして賄っている。しかしそのままでは飲料に用いることができないため、イタリアからボトルウォーターを輸入する、家庭用浄水器の使用などで飲み水を得ている。また水不足のため水を使用する活動が制限されることもあり、マルタにとって水は非常に貴重な資源となっている。

PBL のスケジュール

本研修期間中に行われた、課題解決型研修(PBL)のスケジュールは以下の通りである。

PBLスケジュール

classlive

PBL(Water Issue)スケジュール

スケジュールは現地情勢により変更になる場合があります。その際は事前に通知されます。

日程	時間	レッスンカテゴリー	概要	講師 / メンター	利用ツール
8/29(月)	16:00-16:50 Group A 17:00-17:50 Group B	マルタ概要	マルタ在住メンターによるグループセッション(1: 3〜4)にて、インタラクティブにマルタについて学びます。	マルタ人	Zoom
8/30(火)	16:00-16:50 Group C 17:00-17:50 Group D	マルタ概要	マルタ人メンターによるグループセッション(1: 3〜4)にて、インタラクティブにマルタについて学びます。	マルタ人	Zoom
9/1(木)	18:00-18:45	マルタ インタビュー＆交流	①現地高校・大学に通う学生やマルタで暮らす人々との交流やインタビューを通して学習。フィリピン人メンターがファシリテーターとしてつきます。	フィリピン人	Zoom
	18:45-19:30		②各グループのテーマについて日本の文化を紹介し、相手国の事を訪ねながら各グループで異文化交流を行います。		
9/2(金)	18:00-18:50	マルタフィードバック	各グループ、フィリピン人メンターがファシリテートの下、これまでにで得た情報を共有しつつ、互いの違いと日本との違いをディスカッション形式で進めます。	フィリピン人	Classroom
9/5(月)	18:00-18:50	フィリピン概要	フィリピン人メンターによるグループセッション(1: 3〜5)にて、インタラクティブにフィリピンについて学びます。	フィリピン人	Classroom
9/7(水)	18:00-18:45	フィリピン インタビュー＆文化交流	①現地高校・大学に通う学生やフィリピンで暮らす人々との交流やインタビューを通して学習。フィリピン人メンターがファシリテーターとしてつきます。	フィリピン人	Zoom
	18:45-19:30		②各グループのテーマについて日本の文化を紹介し、相手国の事を訪ねながら各グループで異文化交流を行います。		
9/8(木)	18:00-18:50	フィリピンフィードバック	各グループ、フィリピン人メンターがファシリテートの下、これまでにで得た情報を共有しつつ、互いの違いと日本との違いをディスカッション形式で進めます。	フィリピン人	Classroom
9/9(金)	16:00-16:30	バーチャルツアー	①佐賀大学　動画等を流しながら佐賀大学と佐賀県の紹介を行っていただきます。	フィリピン人 マルタ在住の方	Zoom
	16:30-17:00		②フィリピン　生中継を予定しています。*現地情勢によってはオンデマンドに変更		
	17:00-17:30		③マルタ　生中継を予定しています。*現地情勢によってはオンデマンドに変更		
9/12(月)	18:00-18:50	まとめ・プレゼン資料作成	これまで学習したことをまとめ、グループ毎にプレゼン資料を作成します	フィリピン人	Classroom
9/16(金)	18:00-18:25	プレゼン演習	各グループ発表前の練習を行います。(各グループ　プレゼン10分 + Q&A5分)	フィリピン人 佐賀大学	Zoom
	18:30-19:30	プレゼン発表	プレゼン発表(グループ毎) *グループ全員で協力し、1つのプレゼンを発表します。		

PBLは予約不要です。レッスンのスケジュール右横に zoom のロゴが表示されています。のアイコンをクリックすると、Zoomアプリが自動で起動して接続します。
原則的に、指定時刻の5分前以降にZoomをオープンするため、それ以前は接続されませんので、ご注意ください。

1

1 日目：各グループに 1 人のマルタ在住メンターからマルタに関する基本的な情報を学ぶ。

2 日目：マルタ在住の学生と、水問題に関してそれぞれの国についてディスカッションし、佐賀大学学生が日本文化を紹介する。(A:和食・行事、B:音楽・アニメ、C:建築・スポーツ、D:料理・陶芸)

3 日目：各グループでファシリテーターからの質問や他のグループメンバーからの質問に答え、マルタと日本の水問題についてディスカッションする。

4〜6 日目：1〜3 日目と同じアクティビティをフィリピンの学生、メンターと行う。

7 日目：日本・フィリピンは動画を用いながら、マルタはリアルタイムで各国を案内する。

8 日目：マルタ・フィリピン・日本の水問題に関する知識を、各グループファシリテーターからの質問などに答えてフィードバックを行い、プレゼンテーションの準備を行う。

最終日：各グループ約 10 分間、水問題についてのプレゼンテーションを行う。

メンバー紹介

本プログラムの参加者は以下の通りに 4 つのグループに分かれて活動した。
（☆:グループリーダー）

グループ A

☆石橋 勇瑞季（YUKI ISHIBASHI）理工学研究科 1 年
　奥田 帆夏（HONATSU YODA）経済学部 2 年
　黒岩 夏帆（NATSUHO KUROIWA）農学部 1 年

グループ B

☆永田 美咲（MISAKI NAGATA）理工学研究科 1 年
　藤本 千穂里（CHIHORI FUJIMOTO）芸術地域デザイン学部 3 年
　土橋 彩香（AYAKA TSUCHIHASHI）農学部 1 年

グループ C

☆山﨑 成美（NARUMI YAMASAKI）農学部 3 年
　西村 奏波（KANAMI NISHIMURA）理工学研究科 1 年
　山佐 啓斗（KEITO YAMASA）農学部 2 年
　中原 歩美（AYUMI NAKAHARA）経済学部 2 年

グループ D

☆宮口 稔里（MINORI MIYAGUCHI）理工学研究科 1 年
　宮崎 愛理（AIRI MIYAZAKI）農学部 3 年
　上 智寛（CHIHIRO KAMI）芸術地域デザイン学部 2 年
　南村 果音（KANON MINAMIMURA）理工学部 1 年

参加者による報告書

A グループ

「マルタ・フィリピンプログラムを経て」
理工学研究科修士１年　石橋勇瑞季

直接の国際交流がパンデミック以降少しやりづらくなっていた中でオンラインという手段で交流を通して環境問題について話し合いを行えるという事に興味を持ち参加した今回のプログラムですが、英語を通して交流をしたため語学のスキルアップと環境に対する配慮特に水の問題に関して考えを深めることができました。

具体的な学んだ形としては、まずマルタ・フィリピンに関して下調べを行い基礎的な知識を得た後、英語のレッスンを受けました。英語レッスンでは、マンツーマン・グループレッスンがあり、グループレッスンでは、日本人生徒以外に、タイやフィリピン人の生徒と一緒に受けました。フィリピン人の先生はフランクでさらにタイ人の生徒もとても交流に積極的で日本人がいかに積極性に欠けるか進歩とを痛感して改善する機会となりました。授業前の挨拶では自分からフランクに挨拶しに行くことも恥ずかしげなく行うことができるようになりました。積極的に話すことがベーシックな交流で合ったためフランクに行けたのは大きな進歩となったと感じます。

マルタは水の問題の中で特に水不足が大きな問題です。

マルタの年間降水量は 550mm 程度でそれほど多くないので水は非常に不足しており、川も湖も貯水池もないためマルタの水道水は海水を淡水化したもを利用しています。そのため、水道水のほとんどを海から調達し、塩分だけを取り除いて水不足を解消しています。直接飲むことはできないため、家庭用逆浸透膜を導入し、蛇口から出る水道水を浄化しています。家庭用逆浸透膜を購入する余裕がない場合は、家庭用浄水器（ピッチャー）を使用します。浄化しても金属的な味がするため、ペットボトル水を飲むこもおおく、主にイタリアから輸入しています。限られた水道水と輸入した飲料水によって多くの生活に必要な水を賄っています。さらに廃水を 3 つの処理工程で徹底的にろ過し、新しい水に変える「ウォータープログラム」を導入している。その結果、環境と農業に安全な高品質の水を生産しています。

フィリピンではごみによる水の汚染が大きな問題となっています。川、海に捨てられたごみによって魚にも影響を与えていて魚の量にも影響を与えています。さらに洪水などの影響で水災害も大きな被害をもたらしています。

日本では大雨の影響で川の氾濫や洪水が主要な問題である。それぞれの国によ

ってそれぞれの状況があり、それらの問題とそれに対する解決努力はそれぞれ違い、実際の声を国際交流を行ってうことで、得ることができ水問題に関して知見を広げることができました。

最後になりましたが、この度のオンライン研修に携わって下さった佐賀大学の先生方、GG 社の担当者様、Classlive の先生方、グループのメンバーの皆さん、約 1 カ月間、大変お世話になり、ありがとうございました。

「オンライン留学で有意義な夏休み」
経済学部２年　與田帆夏

今回オンライン留学に参加した理由は、英語力の向上でした。今まで英語の授業で自信を持って英語で発表することができなかった自分を変えたかったのです。１ヶ月間のオンライン留学で、最初の方は不安と緊張でいっぱいでしたが、クラスライブの先生方がとても優しくて楽しく英会話が出来ました。私が参加したマルタ・フィリピンプログラムではマンツーマンレッスンが 25 分×34 コマ、グループレッスンが 50 分×34 コマを 1 ヶ月でこなすというものがあり、1 日中英会話なんていう日もありました。しかし、このおかげで、プログラムが終わる頃には英語を話すことに少し自信が持てるようになりました。もっと海外の方と話したり、実際に海外に行って自分の知らない世界をみたりしたいと思うようになりました。このプログラムに参加して夏休みが充実し、参加して良かったと思っています。以下の写真はプログラム期間中にフィリピン人の方と交流した時のものです。



また、このマルタ・フィリピンプログラムではマルタとフィリピンの方と交流しながら、マルタ、フィリピン、日本の水問題

について学びました。これらの３カ国の水問題について説明します。
まず、マルタについて説明します。マルタでは水不足が大きな水問題となっています。マルタには川や湖がないため、水道水は海水を淡水化したものを利用しています。また、マルタの人々は各家庭で、海水を飲料水に変えることが出来るろ過装置を所持しています。これらを使えば安心して飲めますが、塩分を除去しているとはいえ、美味しくはありません。以下の画像がマルタで使われているろ過装置です。





次にフィリピンについて説明します。フィリピンではフィリピンの主な水問題は、水質汚染、水不足、洪水です。フィリピンでは、急激な人口増加、都市化、工業化が進んでいます。これらが水質汚染の原因となっています。この水質汚染が原因となり、魚の漁獲量が減少しています。また、フィリピンには雨期と夏期があり、雨期には洪水が頻発し、夏期には水不足が起こっています。インフラの整備が一刻も早く必要であると感じました。
次に日本について説明します。日本の主な水問題は洪水と水質汚染です。毎年、全国各地で大雨、洪水が起こっています。また、川や海の水が濁っていたり、ゴミが落ちていたりしているところをよく目にします。
これら３カ国のように、世界には水問題が沢山あります。私たちに出来ることは水を節水し、大切に使うこと、ゴミは正しい場所に捨てることです。このプログラムを通して、水のありがたみを改めて感じました。これからは節水を心がけていこうと思います。

「研修を通して」
農学部１年　黒岩夏帆

私がこの研修に参加しようと思ったきっかけは英語のアウトプットの練習がしたいと思ったからです。この夏休みSUSAP のレッスンに多くの時間を費やして英語と向き合った日々は自分にとって本当に貴重な経験となりました。

【英語学習について】

　オンライン研修の当初は緊張感と言いたいことがすぐ頭に浮かばないことに戸惑いがありましたが回数を重ねていくうちに昨日よりもスムーズに話せた！と思うことが多くなっていきました。時にはうまく伝わらずジェスチャーで会話をすることもありましたが講師の方々が受け止めて下さったことで話すことへの抵抗が薄れました。レッスン中に会話を楽しんでいるように見えるといって下さったときはとても嬉しかったです。相手に伝えたいという気持ちが何より大切だと感じました。また高校の時から先生から文法が一番大事と口を酸っぱくして言われてきたことに納得がいきました。瞬時に返答しようとしたとき単語だけが真っ先に出てきてしまい、組み立てに迷うことがあったからです。文法の授業で基礎事項を復習できたので再度自分で学びなおしたいです。その他、講義中難しかったことは英単語の意味を英語で答えることです。自主学習の時に英英辞典を初めて使いました。分厚くて今まで使う機会がなかったのですが、この研修期間中にとても役に立ちました。特に似た意味の微妙な違いを調べるときに便利でした。

【各国の水問題について】

　日本、マルタ、フィリピンは３か国とも島国ではあるけれど生じる水問題は気候や地形、文化によりバラバラでした。マルタは深刻な水不足、フィリピンは水質汚染、水不足、自然災害が問題です。日本では水質汚染と洪水等の自然災害が挙げられます。他国の学生とのディスカッションを経て、日本は豊富な水資源があるからこそ、節約する、大切にするという面では見習わないといけないことがたくさんありました。話し合った解決策としては、水を浪費しないことやごみの分別を意識するなどの自分たちにできること、政府の援助や学校教育で環境問題について扱う機会を増やすなどなど色々な案がありました。グループで話すことはほかの人と意見を共有できるため自分の視野が広がったことを感じました。また他国の人は考えを述べる際、水問題に対して明確な意見を持っていた印象が頭に残っています。私たちは、現在の日本についての知識をよりつけ、自分なりの意見を伝えられる力をつけていくべきだと思いました。

研修期間はこのように有意義な時間を過ごすことができ、成長を感じることのできた夏休みでした。最後に私が講師の方に教えてもらった言葉を紹介します。

live life to the fullest！（後悔のない充実した人生を！という意味）

私の目標はコロナが収束したら海外に行くことです。今しかできないことを大学でたくさんできたらいいなと思います。

今後の英語学習の原動力になったのでこれからも根気強く、楽しんで続けていきたいです。

B グループ

「研修を通じて学んだこと」
理工学研究科修士１年　永田美咲

今回私は「マルタ＆フィリピン ClassLive プログラム」に参加しました。参加した目的は主に２つありました。１つは海外の研究を行っており英語を話したり、書いたりすることで意見や意思疎通を図る必要性があることでした。
リスニングに関して特に苦手意識を持っていて、日常生活においても英語で話してくれる留学生の伝えたいことをうまくキャッチすることができず、苦い思いをしたことも多くありました。今回クラスライブや水環境に関するディスカッションを通して、議論の内容すべてを急に理解できるようになることはありませんが、少しずつこの表現は分かるといったようにキーワードを聞き取れるようになったのではないかと感じます。また、少しゆっくりと話してもらうことで理解できることも多く、今後の課題としてはリンキングであったり、ネイティブのスピードに慣れていくといったことが挙げられます。特に、学会で発表する際にはどうしても学術英語を理解しておく必要があるので、今後も単語学習は習慣化させ、コツコツ学んでいきたいと思いました。
２つめの目的は自国だけに留まらず世界に目を向けて自身の視野を広げていくことでした。これに関しては、特に

SUSAP の事前研修である石松先生、宮武先生の授業が印象に残っており、非常に自分の中で学びが多かったように感じています。日本人は自分の国のことをよく知らないと言われていますが、自分自身のその一人だと痛感し、学び直すきっかけとなりました。英語を通して海外の人々と意見を交えたりする際に、まずは一人の人間として両国の文化や歴史、価値観などに関する教養を持っておくことは非常に大切なことだと感じました。英海レッスンにおいても、教養・知識というのはコミュニケーションの種のようなものだと思いました。英会話を通して、海外映画のオススメを教えてもらったり、日本の魅力的な街について紹介したり、実際に質問されて考えてみることで再認識したり、より好奇心が広がっていくように感じました。異文化コミュニケーションに関しても意識を向けるようになり、多文化共生に関する書物にもいくつか手を伸ばし学びを深めるきっかけとなりました。

修士研究のこともあり、マルタ・フィリピンの全てのディスカッションに参加することは叶いませんでしたが、限られた時間の中でも非常に学びが多かったように感じています。今回をきっかけとして今学び直したい、もっと知りたいと思うことに貪欲に取り組んでいきたいと思います。

最後に、プログラムに参加できない日も多くありましたが、同じグループの彩香さん、千穂里さんは事情を理解してくれ、非常に多くのサポートをして頂きました。また、自身の語学学習の向上に協力して頂いた英会話レッスンの先生方、海外に出るうえで自国に対して学び直すきっかけを与えてくれた事前授業の先生方、ありがとうございました。

「研修から得たもの」
芸術地域デザイン学部３年　藤本千穂里

今回の研修を通して学んだこと得られたものは非常に多く、英語力の他にも他者とのコミュニケーションの取り方や環境問題に対する考えなど、研修期間前後で自分自身の中で変化が生まれた研修であった。まず英語でのコミュニケーションについて、元々この研修に参加した目的の一つとして「英語の能力、特にスピーキングを集中的に練習したい」という理由があった。普段から文法や単語を学んでも、実際に会話する時に文が思いつかない、どのように言い換えられるのか即座に出てこないなど、英語で会話することにかなり苦手意識を持っていた。これを克服するために、英語のみを話さなければならない状況を経験することが必要だった。今プログラム中のレッスンでは、マンツーマンレッスン・グループレッスンどちらでも先生が必ず話す機会を与えてくれるため、自分から会話に入る必要がないこと、また質問と返答を繰り返す形で会話が進むためどのように話を進めていけば良いのかわかりやすいことなどから、授業を重ねていく内に徐々にスピーキング自体に対する苦手意識が薄れ、最終的に「もっと色々な話題について会話したい」とかなり前向きに捉えられるようになった。これが一つ目の大きな変化である。二つ目に、話すことに対しては目的意識を持って臨んだが、加えてグループレッスンを通して聞くことの重要さについて気づきを得た。もちろんリスニング能力は会話において必要不可欠だが、今回は他のグループメンバーが話す単語や文法から非常に多くの英語表現を学ぶことができた。またそれを実際にスピーキングに活かしたことが、前述したように英会話に対する苦手意識が無くなっていった理由の一つとなった。言い換えや表現については先生も教えてくれるが、それ以上に会話中に知らなかった、使ったことのない表現が出てくると自主的に調べて使うようになり、前向きに参加できるようになった。加えて表現や文法について、マンツーマンレッスンの際に先生が「その文法の使い方がとても良い」、「その表現はよく使うよ」など褒めてもらうことや、より詳しいことを教えてもらうことができ、一つのモチベーションとなった。そして最後に、PBLで水問題について何度もディスカッションを重ねていくうちに、日本の常識は他国では常識ではないことを強く実感した。水の使い方や普段の節約法などをグループでディスカッションする際に、マルタやフィリピンの学生は明確な考えや方法を持っていたのに対して、私は考えなければ思いつかず、普段水に対して、ひいては環境について全く意識していないことに気づいた。日本では日常生活において環境問題の影響を受けることは台風や豪雨以外にあまり無いと考える。しかし世界では、フィリピンのように海洋プラスチックによる水質汚染について深刻に悩んでいる国もあり、いかに私たちが恵まれた環境にいるのかということをディスカッションのフィードバックを行う内に考えるようになった。そしてそれ

を研修以前は他人事のように感じていたが、日本でもこのまま生活排水による汚染などが続いた場合、いつかは水について考えなければならない日が来るのではないかと研修を終えて考えた。そして現在は、マルタやフィリピンの学生がディスカッション内で話した節約法などをできる範囲で実践し、今までの月間の水道の使用量とこれからの使用量を実際に比較して、どれほどの差が生まれるのかを確認しようとしている。このように、今回のプログラムは英語能力自体ももちろん向上したが、それ以上にコミュニケーションや環境について、私生活にも自身にとって大きな変化をもたらしたものとなった。

「SUSAP 研修を通して学んだこと」
農学部１年　土橋彩香

今回、SUSAP のマルタ・フィリピンプログラムに参加しました。このプログラムに参加した理由は、単なる好奇心でした。もともと環境問題に関心があり、水問題について、実際に現地の人の話を聞いてみたいと思い、このプログラムに参加しました。また、オンライン英会話ラウンジに普段から取り組んでおり、マンツーマンレッスンだけではなく、今回のプログラムでしかできないグループレッスンも経験してみたいと思ったのも理由の一つでした。たくさんレッスンを受けられることも私にとってとても魅力的でした。また、本格的にプログラムが始まる前に事前研修で日本の歴史について学習しました。私は高校生の時まで、歴史が嫌いで勉強することが苦手だったのですが、マルタやフィリピンと日本を関連づけて教わったので、「SUSAP でかかわる国だ。」と考えることができ、楽しく学習することができました。日本についての知識も増えて、良い経験になりました。佐賀県の紹介動画や日本の文化紹介の資料を作成することは大変でしたが、班の先輩方と調査に行くことは楽しかったし、佐賀の魅力について知ることができたので良かったです。

本格的にプログラムが始まり、水問題について、現地の方やフィリピンの先生と話し合う授業がありました。水問題について話し合う中で、もし自分が政府の人なら、水問題をどのように解決するか

と質問されました。その時私は、フィリピンやマルタの水問題だけではなく、日本の問題についても知識が足りないと改めて気づかされました。SUSAP に参加する前は、節水について自分のするべきことはわかっていても、自分が水不足の経験をしたことがないため、身近に感じておらず、行動に移していませんでした。しかし、現地の人の話を聞いて、自分がどれだけ恵まれた環境にいるかわかって、節水への意識が高まりました。このプログラムに参加してから、水筒を持ち歩くようになったし、水を出しっぱなしにすることがなくなりました。SUSAP に参加したことで、自分の環境に対する意識が、確実に変わったと思います。

また、マンツーマンレッスンでは、たくさんの先生と会話がしたかったので、なるべく新しい先生を選ぶように心がけていました。SUSAP では、1 週間に 1 チケットではなく、1 日に約 2 回マンツーマンレッスンが受けられたので、自分がうまく表現できなかった英語を忘れる前に、次のレッスンで使うことができました。そのため、確実に表現できる言葉が、増えたと思います。テキストを使って基礎的な英語を英語でおそわることは、私にとっては、最も効率的な勉強方法でした。このことは、グループレッスンでも共通して言えることでした。私は、文法の勉強が本当に苦手で、日本語で勉強しても、いつどの表現を使うのかずっと理解できませんでした。しかし、全部英語で教わる時は、日本語で教わるときの数倍集中して話を聞くため、理解することができました。今まで理解できなかった文法の細かいニュアンスの違いを質問して、細かく説明してもらうことで、より理解を深めることができてよかったです。私は、マンツーマンレッスン、グループレッスンともに、絶対に授業の中で質問をするようにしていました。単語の意味は知っていても使うシチュエーションが分からないものがほとんどだったからです。先生が毎回わかりやすい例を挙げて下さったので、進むペースはゆっくりでしたが、1 つの授業が終わる時に分からないことが残らないようになりました。会話がすべて英語なので、先生がよく使う英語やイントネーションは自然と覚えるし、それを真似して、次のレッスンから使うことで、自分のスピーキング力も向上させることができました。

今回のプログラムは私にとってとても濃い内容でした。水問題について改めて考え直すことができ、たくさんのレッスンを集中的に受けることで、以前よりも英語の表現の幅が広がりました。以前は勢いだけで話していた部分がありましたが、先生に質問したり、真似したりして、実際に英語を使うことで、どの場面で、どの文法を使うのか以前より理解できるようになりました。また、理解するスピードや話すスピードが速くなったことが、自分で実感できたので、とてもうれしかったです。SUSAP に参加していなかったら、こんなに集中して英語に取り組んでいなかったと思います。たくさん手助けをして下さった周りの先輩や先生、友人のおかげで、楽しく研修を終えることができました。最後のほうはチケ

ットの消費に苦労しましたが、今回のプログラムに参加して本当に良かったです。わからない言葉や文法はまだ山のようにありますが、今回のプログラムでまず話すことで細かいことを理解できるようになることを学んだので、英語を勉強と思わずに、たくさん話すようにしようと思います。また、日常会話レベルは以前より上達したと思いますが、何かを議論するときの語彙が足りなかったので、もっと単語を覚え、モチベーションを保って地道に頑張っていきたいです。

C グループ

「この経験を糧に」
農学部 3 年　山﨑成美

私は入学当初から交換留学したい！と思っていました。そして、大した計画もないまま、まぁ 20 人も枠があるならいけんじゃないかという甘い考えのまま、前回の交換留学募集に申し込みました。しかし、面接の際、「なんで SUSAP や大学内の国際イベントに参加しないのか」と聞かれ、私は何も答えられませんでした。留学したいという漠然とした理想だけを抱き、英語力向上の努力や、留学の目的・計画等、大切な点を怠っていたからです。そこで、SUSAP の参加を決めました。

実際に参加して本当に正解でした。私の英語力は、小学 1 年生が話すレベルいやそれ以下で、到底大学の授業で発言できるレベルではないことを実感しました。思っていることを、伝えられないもどかしさを感じました。また、英語に限らず、コミュニケーション能力の無さも感じました。フィリピンの先生は、話を広げるために、なんでも why と聞き返してきます。例えば、なんですき焼きが一番すきなの？なんで今日は I'm good なの？とか、普段あんまり考えない当たり前のことに理由を求められ、すぐに返事が思いつかないことが多々ありました。

そんな自分の無力さを感じた SUSAP でしたが、不思議と授業を受けたくないというネガティブな気持ちには全くなり

ませんでした。それは、いつも明るくて、どんな話でも盛り上げてくださった先生のおかげです。チケットがなくなるにつれ、終わりが近づく寂しさを感じていました。1 対 1 でのレッスンも濃厚な 30 分でしたが、私はグループレッスンがとても楽しみでした。グループレッスンで、6 人中私以外海外(アジア)の方という回があったのですが、行きたい国を言うことになった際、3/5 人が日本、2/5 がアメリカと答えており、アニメや、和食の文化はもちろん、敬語やお辞儀等の尊敬の姿勢に興味を持ってくれている人もいました。日本にいることを誇りに感じました。

SUSAP 後、変わったことが 3 つあります。1 つ目は、英語を話すときの恥ずかしさがなくなったことです。初めは、きれいな文章で英語を話せないことが恥ずかしくて、私話せないですぅ～アピールをしながら話していました。しかし、最終的には、話せないけど言いたいこと言うよ！みたいな、開き直った態度で積極的に話すことができました。2 つ目は、SUSAP 前は週 1 だったオンライン英会話の回数を週 2 にしました。英語を話すのが楽しくて、機会を得るためにアプリを入れたりもしました。3 つ目は、マイボトルを持ち歩くようになりました！ SUSAP では、島国の水問題を考えるテーマがあり、そこで自分にできることを考えました。という結果が 3 つ目の変化です。記念に、水筒持ち歩いている証拠写真でも載せときますね。

SUSAP を開催してくださった方々、貴重な機会をありがとうございました。



「SUSAP を受講して」
理工学研究科修士１年　西村奏波

今回、オンラインではありますが、留学を体験してみて学ぶことが想像していたよりも多くあったと感じました。まず初めに、オンライン留学前の事前学習を進めていく中で、自分が日本のことについて知った気になっていて実は知らないことが多くあったと気が付いたことです。日本の歴史や領土問題、文化など、ニュースで何となく知ったつもりになっていたことでも、いざ説明や違いを話そうとすると分からないことがたくさんありました。留学を通して、自国の歴史や文化の知見を深めることができてよかったです。次に学ぶことができたと考える点は、外国の文化について知ることができたことです。今回のテーマはおもに、マルタとフィリピンの水問題についてでしたが、水問題について理解を進めていく中で、水問題の周辺の問題点やそれにかかわる人々の生活環境や意識についても、調べたり現地の人と話したりすることで知ることができました。実際に現地に住んでいる人の話をオンラインで直接聞く機会が SUSAP のオンライン留学を通してあったからこそ、インターネットや書籍からでは知ることができない生の声に触れることができ、理解を深めることができたと考えます。
次に、私がこの SUSAP の研修を通して、身についたと思う能力が 2 つあります。

一つ目は、積極的にコミュニケーションをとろうとすることです。もともと人見知りであることもあり、新しい環境になったときに自分から話しかけることが得意ではないタイプですが、今回の研修がグループで取り組むこともあり、うまくできていなかったこともあったのですが、グループのみんなが優しく接してくれたので、積極的にコミュニケーションをとることができたと思います。また、英語でのコミュニケーションについてです。外国の方とオンラインで会話をするときに、「質問はありますか」と尋ねられ、英語で質問することに対して高いハードルがあったため、躊躇していましたが拙い英語でも単語を並べるだけでも話してみようと考えることができました。「英語を話す」ことに対するハードルを少しでも低くすることができたことが自分のなかですごく大きかったと思います。
二つ目は、英語を話すときの思考の変化です。オンライン英会話を始めたてのころは、伝えたい、話したい日本語をそのまま英語で伝えようと思いすぎて、単語が出てこなかったり文が長くなりすぎたりしてうまく話すことができず、英会話を楽しむことができていませんでした。途中から意識を変えて、言いたい日本語を話せる日本語に少し組み替えてから英語にするように気を付けると英語を組み立てやすくなり、だんだん話しやすくなっていって英会話を楽しむことができるようになりました。
大変だったこともうまく話せずもどかしい気持ちになったこともありましたが、

SUSAP を受講しないと向き合うことができなかったと思うので、受講して良かったと思います。このように、やってみないと自分がいかに英語を話せないのかということに気が付けなかったと思うので、やってみること、挑戦することの大切さについても再認識することができました。
最後に、今回の SUSAP の経験から考えるこれからの目標は、返答のスピードを速くすること、発音をネイティブスピーカーに近づけること、語彙力をつけることです。これから海外に行く機会が増えるので、そのためにも英語を流ちょうに話せるようになりたいと思います。
SUSAP を機に、これからも英語に触れる機会を増やしたいと思い、継続してオンライン英会話を受講することにしたので、今回課題として見えたことを少しずつクリアしていきたいと思います。
またこのような機会があれば、その時はより英語を楽しく話せるようになって参加したいと思います。今回は貴重な経験をさせてくださり、本当にありがとうございました。

「SUSAP 研修を終えて」
農学部 2 年　山佐啓斗

今回の SUSAP はオンラインではあったものの、マルタ・フィリピンの異文化学習を通して新たな価値観を得ることができ、個人的には満足のいくオンライン留学となりました。
参加理由・動機
私は英語を話すことへの抵抗を払拭することと、価値観を広げることを目標に SUSAP のオンライン留学に参加しました。この活動に参加する前は本当にこの留学の意味があるのか疑問に思っていました。私は留学の目的の一つとして、価値観を広げることがあると考えており、それがなければもはや留学をする意味がないとすら思います。また、それは現地に行くことで初めて成し遂げることができることだと思っていたので、オンラインでの留学で価値観を広げることができるのか不安でした。しかし、事前の SUSAP の説明資料や説明会などを通して、そこまでそれについて心配する必要がないということを知り、また、価値観を広げることができなかったとしても英語を話すことへの抵抗を少しでも減らし、今後留学する際の土台にすることができれば良いと思い、オンライン留学に参加することを決めました。
マンツーマン・グループレッスン
このレッスンを通して、初めの頃よりは英語を話すことへの抵抗は薄れました。しかし、初めの頃は、やはり本当に自分の拙い英語が通じるのか不安でした。英

語はもともと苦手であまり好きではなく、そんな英語の 4 技能の中でも Speaking は特に嫌いでした。ただ、その嫌いな Speaking への抵抗をなくすためにこれを始めたので、とにかく何か話して言いたいことだけでも伝えていこうと思ってレッスンを続けていきました。授業の中ではとにかく先生が自分の言いたいことを汲み取ってくれて、流暢な英語で表現してくれました。そのため、徐々にその抵抗も無くなっていきました。話すことへの抵抗は減らすことができたので、今後はより正確な文や、話すときのリズムなどを意識して Speaking を行なっていきたいと思います。
また、マンツーマンレッスンもグループレッスンも受けないといけない授業のコマ数がかなり多く、これが 1 ヶ月で消化する量なのかと目を疑いました。こまめに受けてはいたつもりでしたが、最終的には最後の週に詰め込んでしまう形となったのでもう少し計画的に受けていくべきでした。
交流会
この交流会では新たな世界線を知ることができました。それは国に水がないというものです。飲み水がないとか水が足りないとかそういったことが普通起こらない日本では考えられないことでした。マルタやフィリピンをはじめ、水不足が深刻な国にとって使用する水をなるべく少なく済ませることは当たり前のようです。交流会の際に日本での節水の取り組みについて聞かれた際に全く思い浮かばなかったことは個人的には衝撃で、どれだけ日本が水資源に恵まれているのか知るきっかけになりました。
3 カ国の水資源に関する討論だけでなく、マルタのバーチャルツアーやフィリピンの食文化などにも驚かされました。マルタの教会の壁から天井まで一面に描かれた絵の壮大さには興奮しました。私はこれまでヨーロッパには興味がありませんでしたが、実際にそういった絵を見に現地へ行ってみたいと思いました。また、フィリピンの伝統的な料理の一つであるバロットはトラウマになりそうな料理でした。バロットとは孵化前の鳥の有精卵を辛く味付けして煮たものだと教わりました。写真を見たときは食文化の違いをモロに感じました。

オンラインではあったものの、貴重な経験を積めた留学でした。この経験を土台にし、さらなる海外進出を進めていこうと思います。

「有意義な１ヶ月」
経済学部２年　中原歩美

私は、今回 Class Live マルタ・フィリピン課題解決プログラムに参加しました。このプログラムは、ClassLive のマンツーマンレッスン３４コマ、グループレッスン３４コマ PBL が８コマと英語を話す機会がとても多いものでした。普段英語で話す機会があまりない私にとっては、１カ月ほぼ毎日英語を話すというとても新鮮な体験でした。
そこで学んだことが３つあります。
１つ目は、ネイティブな英語の聞き取りにまだまだ訓練が必要だということです。ClassLive のレッスンでは、先生が聞き取りやすく話してくださったため、内容の理解に苦しむことはあまりなかったのですが、PBL でマルタについての説明を現地の方から聞いているときや、マルタ・フィリピンの現地の学生との文化交流のときなど現地の人たちがなんと言っているのか分からなくなってしまうときがありました。私はもともと英語のリスニングが苦手だと思ってはいたのですが、それをより痛感しました。
2 つ目は、英語を話すのに羞恥心はいらないということです。レッスンのはじめのいくつかで、英語を話すのに自信がないということを話したら、すべての先生が自信を持つことが大事だと言ってくれました。そして、あなたの英語は大丈夫だとも言ってくれました。そこで私はネガティブになってはダメでもっと自信を持たなければならないということに気づかされました。また、レッスンをすすめるうちに英語を話すことに少しずつ自信を持てるようになりました。この経験から、英語を話すときの羞恥心は英語の向上の障害でしかなく、これからは自信を持って英語を話していこうと思いました。
3 つ目は、もっと水問題のことを真剣に考えなければならないということです。マルタやフィリピンの水問題の話を聞いていると、マルタは雨が少なく海水から飲み水を作る機械が高級なので水不足が深刻だということ、フィリピンは台風や水汚染による洪水や川や海のゴミ問題が深刻だということを知りました。同じ周りが水に囲まれた島国であっても抱えている水問題は異なるということがわかり、それすら今まで知らなかったことに恥ずかしさを感じました。また、マルタやフィリピンの学生と話していると、日本とは違いゴミ拾いの活動などに積極的でとても驚きました。日本で暮らしていると水がとても貴重なものだという認識が薄れてしまい、水が自由に使えるのが当たり前になっているような気がします。しかしよく見てみると、最近は日本でも毎年大雨による洪水で被害が出たり、道を歩いていると川にペットボトルが流れていたりします。私はこのプログラムのおかげで水の大切さを学ぶことが出来たので、他の国の水環境がどうなっているのか理解することは非常に重要だと感じました。
私は、このプログラムで、実際にマルタとフィリピンに行ってみたいと思いました。どちらの国も、とても海がきれいだ

と言うことがわかったし、とくにバーチャルツアーでみたマルタの街の風景が印象的でした。最後に、私はこのプログラムのおかげでたくさんのことを学ぶことが出来ました。そして、英語学習に対するモチベーションを高めることも出来たと思います。このプログラムを通して学んだことを心に刻み、これからの生活にも生かしていきたいです。ありがとうございました。

D グループ

「研修を通じて学んだこと」
―Class Live マルタ・フィリピン課題解決プログラム
『水資源と環境について英語で考える１ヶ月』においてー
理工学研究科修士１年　宮口稔里

私は今回のプログラムが初めての参加である。以前から留学をしたいという思いはあったが、そこまで熱望するものでもなかった。しかし、大学４年生の時期に研究室に配属されてからは、その意識が変わった。研究室には留学生が複数人おり、英語が日常的に飛び交っている場所であった。また、先輩達は研究室におけるプログラムにおいて複数回渡航していた。私もその経験ができると考えていたのだが、コロナ禍の影響で海外に行くことが困難となってしまった。その周囲の環境やコロナ禍の影響により、より海外に行って経験を積むことを望むようになった。そこで研究室の担当教授に紹介されたのが本プログラムである。しかし、その応募後タイへの渡航予定が決まり、プログラムの日程と丸々かぶってしまっていることが分かった。かぶったことで参加できない研修があったが、タイでの経験も今回のプログラムにおける学びの更なる助けになったのではと思う。

・事前研修で学んだこと
　事前研修では、日本の文化や海外との関係についてなど様々な講義を受けた。

私は、そこまで日本の文化や歴史について学びはするものの、注目することはあまりなかった。しかし、研修を通じて日本について知ることの大切さや自分がどのくらい日本についての知識がないのかということについて考える機会となった。また、日本についての知識があることによって、海外の人々と話す機会に活かせることや質問をされたときに恥をかかないようにするべきであるということを学んだ。
また、他国との関係性についてはどこの国との関係が良好か険悪かなどは知っていたが、なぜそのような関係が築かれているのかは知らなかった。関係が悪い国とでは、あちらが無謀な要求や思考をこちらに求めてきていると思っていたのだが、歴史上において考えると両国ともに理由があり解決がほぼ不可能であることにより、このような関係性が築かれていると知ることができた。そのような関係性を知ることで他国の人々との議論も可能になるということを学んだ。

・オンライン研修で学んだこと
　オンライン研修において、英会話においてはとっさに英文として話すことの難しさを学んだ。話そうとしても語順がいつもと違うために文法がごちゃごちゃになって伝わらないということを何度も体験した。また、純粋に浮かんでくる文法が少ないことが課題であると知った。学んだつもりでも、とっさに浮かんでこないことが多々あり、より定着させていくことの重要性を知った。また、グループ英会話が更に難しく感じられ、集団で話すときたどたどしい英語を他者に見られることに最後まで慣れることができなかった。
　次に、課題解決型研修では、積極的に話すことの難しさを感じた。マルタやフィリピンの参加者たちは長文を積極的にスラスラと話していく印象だったが、こちらに順番が回ってくると、うまく話せないので消極的な気持ちになってしまい、短い文章で終わらせてしまうことが多かった。学びを深めて自信を持ち、間違えることやスラスラ話せないことへの恐怖を払拭していくことの重要さを知ることができた。また、水環境における話では、他国の環境を知れたこともよかったが日本の水環境について改めて考える良い機会となった。日本における水環境問題について聞かれたときにとっさ思いつくのが災害や天候の事情など特殊な状況における問題点くらいであった。他国と比べても日常に水環境についての課題が顕著に表れてこないため、水という資源を貴重に考える機会が失われ、無駄遣いが多いのではないかと気づかされた。

私は、研究における調査のためのタイへの渡航がかぶったことでオンライン研修以降のプログラムにほとんど参加できなかったが、きちんとした文章として英語を話すという機会が設けられたことは自分の現在の英語能力を知ることや英語に対する意識が変わったことに対してはとてもいい機会だったと考える。特に、英会話レッスンが受けられたことは良い経験となった。英会話をしてみたいという思いはあったが、緊張や恐怖が勝り、な

かなか取り掛かることが難しかった。本プログラムでの経験を活かし、英会話という学びを何かしらの形で今後も続けていきたいと考える。
また、タイへの渡航を同じタイミングにしたことで実際に英語を現場で話すことの難しさを感じたが、それ以上に楽しさを感じられたことは良い体験であり、これからの英語学習の助けにもなったのではと思う。

「SUSAP を通して学んだこと」
農学部 3 年　宮崎愛理

　私は今回の SUSAP に参加して自分自身を見直す良いきっかけになったと思います。私はもともと英語を学ぶことが好きで、大学生になったら留学したいと考えていました。しかし、コロナ禍になり留学を諦めて自分の専攻の勉強に力を入れ、英語の勉強もあまりしなくなっていました。そんな中、今回のプログラムを知りオンラインで留学体験ができるということで、自分の為になるかもしれないし楽しそうということで参加を決意しました。事前学習では日本文化の紹介や佐賀の紹介をパワーポイントと動画でグループの人達と作りました。私はグループのリーダーになったので、率先して作ろうとしていたのですがみんな学年も学科も違ったためなかなか予定が合わずに大変でした。何を紹介するか、いつ集まるかなどを決めることから始まり、テスト期間前でもあったのでみんなに負担なくどうするかを考え提案したり、役割分担をしてみんなで協力して作り上げることができました。学年がバラバラな人達と関わることがなかったし、英語が流ちょうな人や動画作成や発表が上手な人など佐賀大学にはこんなにも優秀な人達がいることを知ってすごく良い刺激になりました。SUSAP のマンツーマンレッスン、グループレッスンではフィリピンの先生とたくさん話すことができました。マンツーマンレッスンでは英会話のように全て英語で話して最初の方は言いたい

ことがうまく伝えられなかったり、発音が悪くて伝わらなかったりして言語の壁を感じ、悔しい思いをしました。私の英語力の低さも実感しました。回数を重ねるごとに、耳も慣れて速いスピードの英語も聞き取れるようになったし日本語を英語に変換できるようになっていきました。フィリピンの先生は日本に興味を持っている方が多く、私のおすすめの日本文化を紹介したり日本についての話をたくさんしました。漫画やアニメを知っていて日本文化のすごさも感じたし、私の知識不足で説明できないこともあったので自国についてもっと知らなければならないと痛感しました。外国の人と交流することで、日本文化について考えるきっかけになり、日本文化を見直すきっかけにもなりました。グループレッスンではタイの学生が参加しており、タイの学生達は英語がとても流ちょうで日本の学生と英語力にこんなにも差があるのかと驚きました。私が英語で質問すると何回か聞き返されてもっと発音を学んで英語力を向上したいと強く思うようになりました。どのレッスンも本当に楽しくて英語を楽しみながら学ぶことができました。最後の方は期限までに間に合いそうになくて 1 日 6 時間くらいレッスンしたりしました。夜の 12 時までやった時はきつかったのですが、英語漬けの日々を過ごすことで英語力が伸びたと感じました。PBL ではフィリピンとマルタの水問題をテーマに学び、考えて話し合いました。私はそれまでフィリピンとマルタの水問題について知りませんでした。マルタでは水不足、フィリピンでは水質汚染、水不足、洪水が問題になっており PBL を通して現地の人の声を聞きました。水不足についての現状を教えていただき深刻さに驚きました。水道水が飲めないほど不味かったり、きれいな水を得ることができないなど日本と違うことが多かったです。日本での水のありがたみも感じたし、もっと水を大切にしないといけないなと感じました。この授業を通して水問題の原因や解決策を自分なりに考えました。淡水化施設の増設や災害に備える取り組みなどが上げられ、これには財政支援や技術の指導など他国の協力も必要なのではないかと思いました。その第一歩として世界には水不足の問題を抱えている国があることに気づき、水を大切にする意識を高めることが私達にできることだと感じました。SUSAP を通して、英語力の向上はもちろんできたのですが他国の問題について考えることで日本についても学びました。また、水問題に関して普段の生活では気づけなかった水の大切さについて学び自分の生活を見直すきっかけになりました。物事の良い面だけを見るのではなく、悪い面や改善するべきところについて考える力もついたのではないかと思います。今回の SUSAP で学んだことを無駄にしないようにこれから生活していきたいです。英語ももっと一生懸命に学んで積極的に外国の人と関わっていきたいです。

「環境と英語に対する意識の変化」
芸術地域デザイン学部 2 年　上智寛

私は課題解決能力の向上や自分の英語力に自信をつけたいと考え、今回の SUSAP プログラムに参加することを決めました。そして、実際に参加し、事前・事後研修も含めたこの一連の体験から様々なことに気づくことができました。

まず 1 つ目は、私が世の中の様々なことに対し無知・無関心であったということです。これは今回の課題解決プログラムの中でディスカッションした水環境問題についてもですが、実際に住んでいる国である日本に対しても感じました。事前研修では日本文化について学ぶ講義がありましたが、天皇についてであったり侍と武士の違いであったり、母国のことであるのに全く知らないし疑問にも思っていなかったことがたくさんあることに気づかされました。日本人が留学した際に海外の方に日本のことについて聞かれても答えることができずに困ってしまうという話を耳にしたことがありますが、もし私がこういった質問をされていたら確実に同じ状況になるだろうと思います。また、ClassLive のレッスンを受けたときにも「日本のおすすめの観光地はどこ？」など聞かれた際にありきたりな返答しかできませんでした。もっと中身の濃い返答ができるように、様々なことに関心を持ち経験を積むことが大切だと感じました。

課題解決プログラムでは、マルタやフィリピンの学生などから話を聞き、マルタとフィリピン、日本の 3 国の水環境問題について考えました。ディスカッションを行う中でたくさんのことを新しい知識として得ることができました。マルタにはコミノ島という 2 人しか住んでいない観光客に人気の島があること、山や川などの水を得られる資源や雨が少ないため島国でありながら水不足に悩まされていることなどにとても驚かされました。バーチャルツアーではカメラ越しではありましたが、マルタの美しい街並みを観ることができました。今回の経験でマルタについて興味がわき行ってみたい国の 1 つになりました。フィリピンについては、170 以上の言語が存在しほとんどのフィリピン人が 2〜3 言語話せること、海洋汚染が深刻で人口の約 10%もの人がきれいな水を利用できていないことに驚きました。世間では環境をよくしようと言われてはいますが、私の知らない現実がたくさんあることに気づかされました。また、日本の水環境問題について考えたときにすぐに考えが浮かばず普段自分が何も意識せず過ごし、問題を自分事と捉えていなかったと感じました。これからは自分が生活している環境に対しもっと関心を抱いて過ごそうと思います。

2 つ目は日本人の水環境に対する意識の低さです。先ほども述べましたが、私はこのプログラムを受けるまで水環境について何も意識していませんでした。ほとんどの日本人が私と同じようにあまり水に対して危機意識を持っていないと思

います。これは日本が水資源の豊富な国であることが大きく関係していると思います。日本ではマルタやフィリピンのように滅多に断水は起きません。また、蛇口をひねれば水が出てすぐに飲むことができます。そのような環境で過ごしてきたため日本人の危機意識は低く、そのことが問題の１つでもあると考えます。今回の研修で日本人が一日に使う水の量がとても多いこと、水資源が年々枯渇していて日本も水不足になる可能性があることを知りました。また、自覚はありませんでしたが日本でも海洋汚染は深刻です。これらのことや他の２国の状況を知ることができ、如何に私たちが恵まれた環境にあったかや、生活習慣を見直すことの必要性に気づきました。このプログラムで学んだことを自分の中に留めておくだけでなく家族や友人にも伝えようと思います。

最後に目標としていた、課題解決能力と英語力の向上についてですが、参加以前と比べると身に付けることができたのではないかと考えます。

まずは、英語力についてです。私にとって英語は苦手科目であったしこれまではあまり好きではなく自分から関わろうとはしていませんでした。ですが、ClassLive でのレッスンを通して英語に対する意識が変わりました。フィリピン人のインストラクターの方が私のつたない英語にも耳を傾け、正しい文法や発音を理解するまで教えてくださったおかげで理解を深めることができました。また、インストラクターの方が皆さんとても明るく授業内容以外のちょっとした会話やゲームもあったりして、最後まで楽しく受けることができました。ですが、課題解決プログラムの際のインタビューは、相手の英語を聞き取るのが難しく、理解に苦労しました。やはり英語への苦手意識がなくなったとはいえ、まだまだ力不足であることを実感しました。今回の学びを忘れずに、英語学習も続けていこうと思います。

次に、課題解決能力についてですが、事前研修からグループワークでの活動が多くあったため、チームワークの大切さや人と協力して何かを作り上げる力を養うことができたと思います。グループのメンバーや他グループの発想力・プレゼンの方法なども学ぶことができとてもいい経験となりました。また、私は大学の授業で SDGs に関することを取り扱った科目を受講しています。今回プログラムに参加して得られた知識はそこでも活かしていきたいです。このプログラムに参加したことが英語や環境についてなど様々なことを意識するきっかけとなりました。今後、この経験を活かせるよう学んだことをしっかりと自分のものにしていきたいです。

「このオンライン留学を通して学んだこと」
理工学部　１年　南村果音

近年、急激な人口の増加や重化学工業の発達に伴い、水資源の枯渇や水質汚染が世界的な問題となっています。それは、日本も例外ではありません。私は、他の島国の抱える水問題について興味があり、その国の水問題への対策が日本でも応用できるのではないかと考え、この研修に参加しました。

私がこの研修に関して強く思ったことは、自国の水問題への意識の低さでした。プログラムの一環として、フィリピンとマルタの学生たちと zoom 上で会話をする機会があったのですが、彼らは自国の水問題の現状を把握しており、それらへの対策等を私たちに説明してくれました。しかし、日本の水問題とその対策を聞かれたときに、私は返答に困ってしまいました。私は、日々の生活で水に困ったことはなかったため、日本の水問題に対する知識に乏しかったからです。ただ、私の故郷の川の汚染や、塩素消毒による水道水の味の変化に対しては身をもって体験していたので、そのことについて話しました。

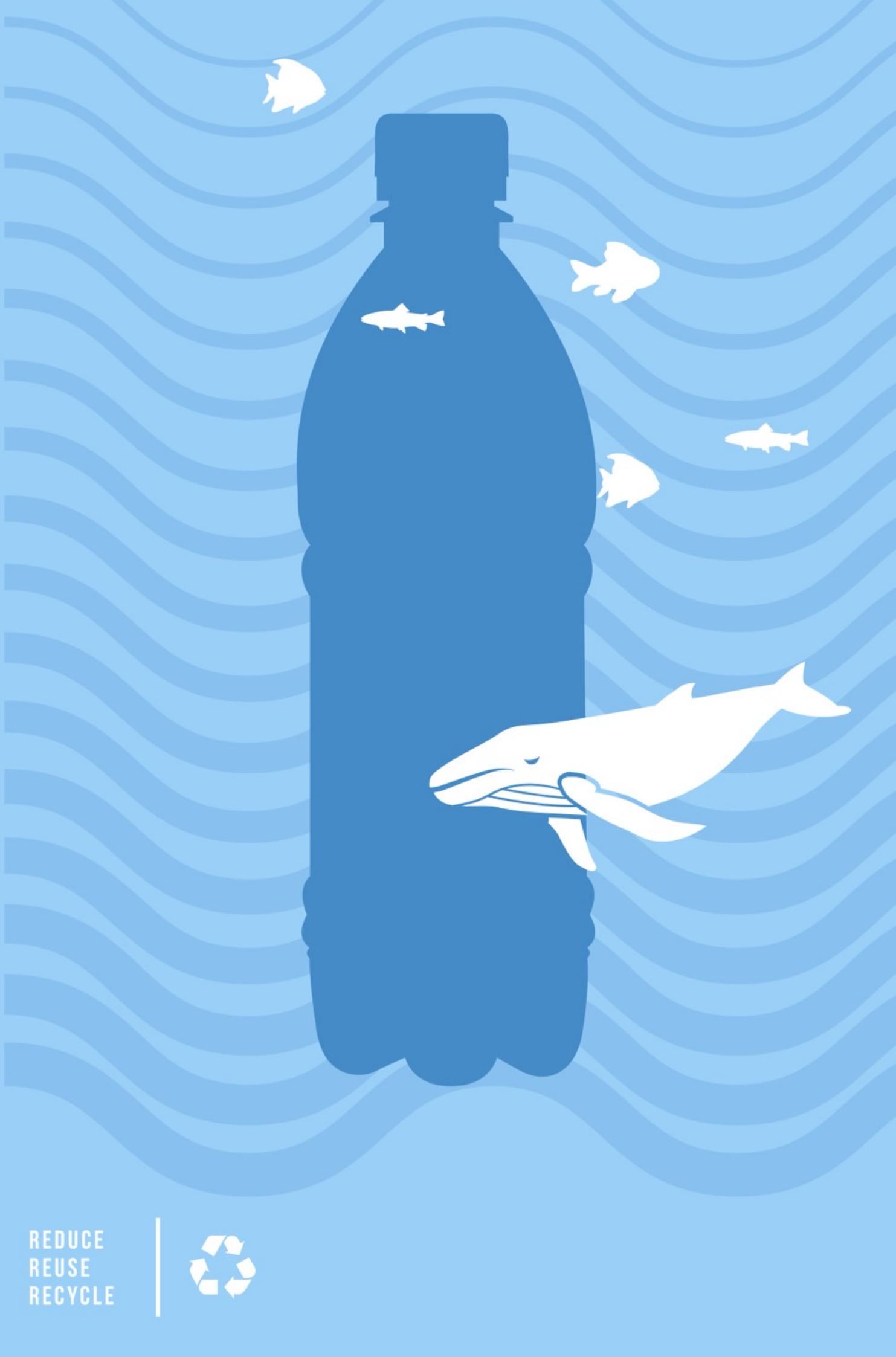
前述のとおり、私が日本に住んでいて特に感じた水問題は水の汚染だったので、それが一番の問題なのだとおもっていました。研修発表のプレゼンの作成で、私が日本の水問題の部分を担当することになり、日本の水問題について調べました。その結果、日本の一番の水問題は水不足であることを知り、とても驚きました。私の故郷では毎年台風が来ますが、それでも断水になることはほとんどありません。ましてや、日常生活で水不足に陥った経験など一切ありません。しかし、調べてみると、川や山が少ない地域では断水が起こりやすく、また、日本の河川は急こう配であるため、距離が短く、雨が降ってもすぐに海へと流れてしまうため、河川の流量の変動が激しく、安定した水の利用が難しいということを知りました。私は、日本に暮らしていながらこの現状を全く知りませんでした。この内容は事後報告でも発表したのですが、私と同様にこの現状を知らない人が多かったように感じました。

私は、日本は水資源が豊かなため、日本の抱える最も深刻な水問題が水の枯渇だとは考えもしませんでした。そのため、テレビの CM やチラシで節水を心がけるように呼びかけられても、あまり気に留めていませんでした。しかし、今回のプログラムで会ったマルタとフィリピンの学生は、日々の生活の中でも常に水問題を意識した行動をとっていました。私は、水問題を解決するには、私たちが水問題に対しての意識を持つことが大切だと思います。今まで気にせずに水を使っていましたが、使っていない時は水を止めるということから始めていこうと思いました。

また、このプログラムは英会話のレッスンもありました。私は、始めたのが遅かったため、レッスンを１日に６～７時間受けるということを１週間ほど行いましたが、短期間に詰め込んだため、英語

を間違うことへの恥じらいが無くなりました。私は単語力がないので、言いたいことが言えないことが多々あったのですが、レッスンを重ねていくうちに、特定の言語を使うことにこだわるのではなく、別の言葉に言い換えて、説明することを学びました。時々、発音が悪くて聞き取ってもらえないこともありましたが、先生が丁寧に教えてくださったので、正しい発音を習得できました。

今回のプログラムでは、島国の水問題や、実践的な英会話など、たくさんのことを学ぶことができました。特に水問題については、今の社会でも深刻な問題であるため、その状況の改善には私たちの日々の生活での心がけが大切だと再認識できてよかったです。コロナが蔓延している今は、現地に行くことは難しいですが、コロナが収束したらマルタとフィリピンへ、足を運んでみたいなと思いました。


REDUCE
REUSE
RECYCLE